



今後の展覧会スケジュール 2012年4月～2013年4月

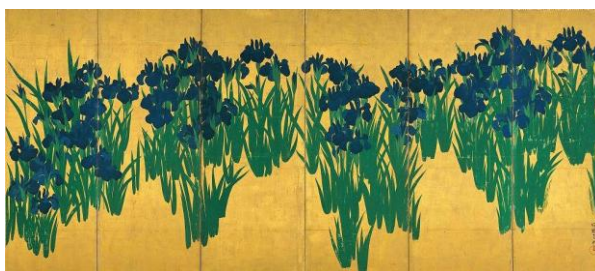
■2012年■

特別展

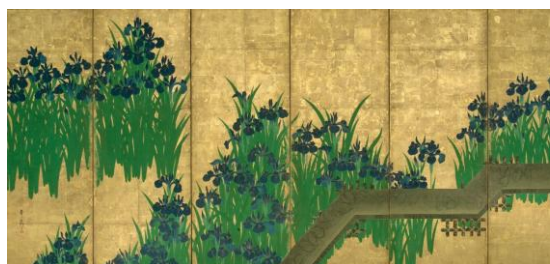
KORIN 展 — 国宝「燕子花図」とメトロポリタン美術館所蔵「八橋図」—

4月21日[土]～5月20日[日]

根津美術館が誇る国宝「燕子花図屏風」と、アメリカ・ニューヨークのメトロポリタン美術館が所蔵する「八橋図屏風」。ともに伊勢物語の「八橋」の場面に発想源を持つ尾形光琳の2点の屏風絵が、およそ100年ぶりに日本で再会します。あわせて本展では、光琳画が歴史的にどのように受容されてきたのか、その一端を検証します。



国宝 燕子花図屏風 6曲1双 尾形光琳筆 江戸時代 18世紀 根津美術館蔵



八橋図屏風 6曲1双 尾形光琳筆 江戸時代 18世紀 メトロポリタン美術館蔵 Image © The Metropolitan Museum of Art

[同時開催] 展示室5 きらめく螺鈿
展示室6 初夏の茶

6月2日[土]～7月16日[月・祝]

からもの 唐物を飾る — 中世人の花会と茶会 —

舞いや踊り、田楽や能楽、蹴鞠や犬追物など、中世の人々はさまざまな芸能を楽しんでいました。ここでとりあげる花の会や茶の湯の会は、人々の社交の場でもありました。そのために人々は、花だけでなく、優れた花瓶や盆を所持し、茶の湯の道具を集めることも楽しみにし、収集品を見せ合う場として、会を開いたと思われます。館蔵の唐物道具によって、中世の人々の世界を見ることにいたしました。



さはりつりふねはないれ ひらた 砂張釣舟花入 罌 南アジア 15～16世紀 根津美術館蔵

[同時開催] 展示室5 牧谿瀟湘八景図巻を写す
展示室6 雨中の茶湯

7月28日[土]～8月26日[日]

おうぎよ ふじはなす 応挙の藤花図と近世の屏風 — 伊年印「草花図屏風」初公開 —

根津美術館の近世絵画は、屏風絵の宝庫です。本展では、写生画派の祖・円山応挙の瀟洒な画風を堪能できる重要文化財「藤花図屏風」や、応挙門下の奇才・長沢芦雪による重要美術品「赤壁図屏風」、そして初公開となる宗達工房の優品「草花図屏風」など、魅力あふれる屏風絵の数々をご覧ください。



重要文化財 藤花図 円山応挙筆 江戸時代 安永5年(1776) 根津美術館蔵

[同時開催] 展示室5 南蛮・島物の茶道具
展示室6 涼一味の茶

9月8日[土]～10月21日[日]

平家物語画帖 いへものがたりがじょう - 諸行無常のミニアチュール - しよぎやうむじやう

「平家物語画帖」は、『平家物語』の120の場面を描いた扇面を上、中、下3帖の画帖に貼り付け、物語の抜書ぬきがきを加えたものです。総長約65メートルの3帖を、前後期に分け、全場面展示します。江戸時代の愛すべき細密描写をお楽しみください。合戦記を絵画化した屏風や、それらをデザインした刀装具なども合わせてご覧いただけます。

- [同時開催] 展示室2 禅僧の名筆 - 重要文化財の修理を終えて -
- 展示室5 平家物語の能面
- 展示室6 雨中の茶湯 うちゅう ちやのゆ



平家物語画帖 下帖(部分) 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

特別展

柴田是真 (仮称)

11月1日[木]～12月16日[日]

柴田是真(1807～1891)は、江戸で活躍した蒔絵師であり、画家です。工芸技術が精密さを極めた幕末から明治時代にかけて、是真は絵心を活かした洒脱なデザインと、卓越した漆工技術で、独自の作品を作り出しました。明治6年(1873)のウィーン万国博覧会に出品され、彼の作品は国内だけでなく海外でも高い評価を受けました。本展では、当館含め国内にある漆工、絵画、漆絵などの作品を展示し、名工・柴田是真の魅力をご覧ください。



扇面葉平蒔絵硯箱写し 柴田是真作 江戸～明治時代 19世紀 根津美術館蔵



夕顔蒔絵板戸 柴田是真作 江戸～明治時代 19世紀 根津美術館蔵

- [同時開催] 展示室5 経典をかざる - 装飾経にこめた願い - そうしよくきやう
- 展示室6 口切 - 茶人の正月 - くちぎり

■2013年■ 1月9日[水]～2月11日[金・祝]

新春の国宝那智瀧図 - 仏教説話画の名品とともに - なちのたきづ

懸崖を流れる一筋の白い瀧。和歌山・那智山にかかる大瀧を描いた「那智瀧図」は、日本人の自然に対する畏敬の念、そしてその荘厳な美しさを表しています。新春の根津美術館は、この名品とともに、当館が所蔵する「善光寺縁起絵」、「聖徳太子絵伝」をはじめとする仏教説話画の数々を一堂に展示いたします。



国宝 那智瀧図 鎌倉時代 13～14世紀 根津美術館蔵

- [同時開催] 展示室5 吉祥文様のやぎもの きつしやうもんよう
- 展示室6 寿ぎの茶会 ことば

2月23日[土]～4月7日[日]

遠州・不味の美意識 - 名物の茶道具 - とんしやう ふまい

江戸時代を代表する大名茶人、小堀遠州は、自らの目で選んだ茶入に和歌にちなんだ銘をつけ、名物裂の袋をつけて高い格付けをしました。松平不味は、選りすぐった茶道具を分類し、「名物」を生み出しました。兩人ゆかりの茶道具を、付属品に至るまで一堂に展示し、ふたりの茶人の美意識を再認識します。



重要文化財 瀬戸丸壺茶入 銘 相坂 日本・南北朝～室町時代 14～15世紀 根津美術館蔵

- [同時開催] 展示室2 大雅と良寛の書 だいが りやうかん
- 展示室5 お雛さま - 旧竹田宮家寄贈品 - ひな
- 展示室6 花見月の茶 きげんげのちや

※展覧会名、作品名並びに会期は変更になる場合がございます。詳細は広報へお問い合わせください。